

すわみつえ通信

No.343 2024年12月23日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

一年間ありがとうございました

すわみつえ通信をお受け取りいただき、読んで、支えて下さったすべての皆さんに心から感謝申し上げます。

しんぶん赤旗の「裏金問題」スクープで始まった2024年は、総選挙で自公政権を追い詰め、国民の力で与党を過半数割れにすることができました。今までの与党一強の政治を変えていくスタートとなりました。地方においても民意が届く政治を行うために力をつくしたいと思います。

皆さまにとって新しい年が平和で希望に満ちた年となることを願い年末のご挨拶と致します。

鴻巣市議会12月定例会閉会となる すわみつえ市議一般質問

11月28日(木)から12月18日(水)まで21日間の会期で開催された12月定例会が閉会しました。

すわみつえ市議が12月16日(月)に行った一般質問に多くの方に傍聴していただきました。川里地域の小中一貫校問題・介護事業者の実態・街路樹の選定管理方法の3項目を質問しました。

教育問題に関する質問の一部をご報告いたします。

■ 小中一貫教育校を取り止めた自治体の教訓を検討せよ

つくば市では2年間、「小中一貫教育検証委員会」で第三者的立場の専門家がつばさに調査を行い、「小中間の一貫教育の効果は、施設一体型にしなくとも十分に発揮されている」「新たに小6問題が顕在化」等の調査結果の元で小中一貫校はとりやめとなりました。当市においても時間をかけて、子どもたち、地域住民の方々に十分な説明を行い検討すべきと質しました。【答弁】「引き続き、積極的な情報提供を行い、一人でも多くの方にご理解いただけるよう取り組む」ということでした。

=他自治体の研究結果などを大いに参考にすべきではないでしょうか=



一般質問視聴
QRコード

■ 「基本構想・基本計画（概要版）」で示された「パブリックコメント」の実施予定は

概要版で示された「パブリックコメント」は、子どもの意見表明権が保障され、計画と相違する意見であっても、聴取が行われることが求められると考えるが実施予定を質問しました。【答弁】「『基本構想・基本計画』は意見交換会・アンケート調査・ワークショップを開催し、検討を重ね策定したものだから、鴻巣市自治基本条例に規定する意見公募手続要綱に基づいたパブリックコメントを実施する予定はない」ということでした。=意見交換会で唯一説明資料として配布された「基本構想・基本計画(概要版)」に図示されたパブリックコメントを行わないことに、市民は納得できないのではないのでしょうか=

「親子交流フェス」賑わい



12月21日(土)市民活動センターで親子で参加し楽しむ「親子交流フェス」が開催されました。覗いてみると、クリスマス用の手作りグッズやスイーツ、段ボールでできた迷路、国際交流ブース、おもちゃの病院など、見て・遊んで・食べて・学べるイベントとなっていました。みんな楽しめたかな。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

【俳句コーナー】
恙無し冬至迎えて来年へ
瑠璃子

日本被団協にノーベル平和賞 核廃絶への大きな力に



賞状とメダルを受け取る日本被団協
の各代表委員=10日、オスロ

ノーベル平和賞の授賞式がノルウェーの首都オスロで開かれ、広島、長崎の被爆者らでつくる日本原水爆被害者団体協議会(被団協)にノーベル賞委員会から平和賞が授与された。核廃絶への運動を長年けん引してきた被団協のたゆまぬ努力と実績が高く評価された。

米国の「核の傘」に依存している日本は核兵器禁止条約に署名していないが、少なくとも条約締約国会議にはオブザーバー参加すべきでは

ないのか。米国やロシア、英国などの核保有国と同じように行動するのが、世界で唯一の被爆国が取るべき態度とは思えない。

被団協のノーベル平和賞受賞は、世界情勢が混沌(こんとん)とする中で、核廃絶の意義を改めて世界に伝える契機となった。日本が平和国家として今後どう行動するかも問われている。

【秋田魁新報社説から一部掲載 12月11日付】



田中代表委員の講演にスタンディング
オペレーションで応える参加者=10日



マイナ保険証解除申請急増 厚労省公表 1.3万件超

厚生労働省は19日、マイナンバーカードの健康保険証としての利用登録(マイナ保険証)の解除申請が11月末までに1万3147件あったと公表しました。政府は今年2月に保険証の新規発行の停止を強行し、「マイナ保険証」を基本とする仕組みへの移行を狙っていますが、解除申請の急増で国民の不信や不安の根強さがあらわになった形です。

解除申請は10月28日から開始。厚労省は11月8日までに792件の申請があったと公表していました。12月2日の保険証の新規発行停止を前に急増しました。解除の理由は「マイナ保険証への不安」「資格確認書がほしい」などです。一方、「マイナ保険証」の利用率は11月時点で18・52%にとどまっています。



「マイナ保険証」を巡っては、カードリーダー(左の写真)で資格情報が読み取れないなど、医療機関でのトラブルが多発。昨年、マイナンバーに別人の行政情報がひも付けられるトラブルも起き、国民の不安が広がっていました。「マイナ保険証」を解除した人には保険者が従来の保険証と同じ表記の「資格確認書」を発行しており、解除後もこれまで通り保険医療を受診することができます。

【しんぶん赤旗 12月20日付】

持ち帰り

猫の好物といえば「お魚」である。ただ、これは日本に限っての話。インドの猫はカレー好きで、イタリアの猫はスパゲティに目がないらしい。何のことはない、身近な人間が与えた残り物を食べる習慣があっただけのこと◆近ごろはキャットフード市場の隆盛で、猫は残り物に目もくれない。まさかそのせいでもなかろうが、国連機関の推計では2022年、全世界の家庭で1日10億食以上が捨てられた。うち日本で廃棄されたのは1日約4800万食。戦火や異常気象で飢えに苦しむ人びとがいる一方で、この世界のいびつさにため息が出る◆ちまたは忘年会シーズン。おしゃべりに夢中になって、気づけば目の前のごちそうは手つかず、なんてことも。そんな食品ロスを減らそうと、厚労省は飲食店で食べ残した「持ち帰り」の衛生指針案をまとめた◆持ち帰りはあくまで自己責任。十分に加熱されたものや水分が少ないものに限る。店から提供された容器に自分で移し替えて...。と、まあ当たり前のことばかりだが、それだけ持ち帰りが身近になってきた証左だろう◆コラムニスト天野祐吉さんは語っている。〈ご飯を食べ残すのは、「もったいない」んじゃないくて、「みっともない」んだよ。思想じゃなくて美意識なの〉。人は食べたものでできている。食事とは生き方まで問われる場でもある。

【佐賀新聞 12月17日付 コラム「有明抄」】